



# 「ヤマメ」とともに成長する、子どもたちの「心」

## 「やまめっこクラブ」の活動が今年も始まっています



最後に集合写真「また会う日まで元気で！」



元気に育てて・・・と願いを込めて



捕まえたヤマメは何グラム？

町の合併により、5年間続いたこのクラブは一度解散となりましたが、保護者・子どもたちからの強い要望で再開。現在は、町全域から約30人の子どもが参加し、より積極的に活動中です。また、袋井市のクラブとの交流など、学区を越えた子どもたちの交流の場も生まれました。

### 黒板に書いた授業だけではなく「自分で体験」して学ぶことも必要

主催者の山口さんを、陰で支える奥さんに話を伺いました。

「宮島先生が良いきっかけをくれたんです。黒板に書いた授業だけでなく、こういう『体験する学習』は、ずっと子どもらの心に残っていくと思います。自分たちで卵から育てて、やがて魚の形になっていく。そして放流して、川で大きく育ってねと願う。普段の日にもヤマメが気になりますよ、水槽をのぞきに来る子もいるんです。微笑ましいんです」と光恵さん。

### 子どもたちに、何か「この町の誇れるもの」を残せないか

山口捷彦さんは言います。

「ヤマメの養育を通して、子どもたちは生き物の尊さを学ぶ。同時に、それらを食べて自分たちが生かされているということも学んでいく。育てる学習と食べる学習。どちらも

『生きる』ことを考える大切な体験だと思ふ。ふだん家では魚を食べない子が、自分で育てたヤマメを『美味しい』と言って食べるんだよ」「地域の子どもたちに何か『町の誇れるもの』を残したいんだよね。お茶にしても、魚の住む川にしても。誰かがやらないと、どんどん忘れていってしまうもの。

自分たちが住むこの町のこの自然は、他に誇れる素晴らしいものなんだということを知って欲しいんだよ」

### ここでの体験が、夕飯どきの家族の会話になったら嬉しい

また、「最近、夕飯での会話が乏しい家庭が増えていっていると聞く。テレビにばかり夢中になって、ろくに会話もしないなんて、家族としてすごく寂しいことだよ。このクラブで体験したことを、夕飯どきに親子で話してもらいたい。楽しかったこと、大変だったこと。そんな家族の会話のきっかけになれば嬉しいんだよね」と山口さん。

「子どもがにぎやかなのが好きだから」と話す山口さんは、より一層元気な声で、子どもたちの輪の中に入っていました。

今後、7月28日の袋井市との交流など、継続的に活動を行っていく予定です。お子さんがいる・いないに関わらず、興味を持たれた方は、ぜひご連絡ください。

「田舎家」：電話(59) 3309

地域に密着した行事、地域を元気にするイベント等、「こっちも写真を撮りに来て！」を募集中です。催しの内容や日時、代表者の氏名、連絡先を役場広報担当までお知らせください。都合がつきしだい、担当からご連絡いたします。